



ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会

2010年（平成22年）8月5日号 No. 1503

目次

■ ウラル国際フェア&フォーラムに参加して —ロシアの「イノベーション」とどう向き合うか—	岡田 邦生 1
■ 統計速報	11
2010年1～6月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／11	
2010年1～6月の日ロ貿易／12	
2010年1～6月のロシアの鉱工業生産／16	
■ トピックス	19
バンドー化学、モスクワに事務所／19	
バルブメーカーの金子産業、ロシアに拠点／19	
■ エトセトラ	19
ウラジオストク講演会のご案内／19	

ウラル国際フェア&フォーラムに参加して —ロシアの「イノベーション」とどう向き合うか—

ロシアNIS経済研究所

岡田 邦生

はじめに

ロシアNIS貿易会（ROTOBO）では本年6月初旬に西岡会長を団長とする総勢40名の経済ミッションをウラル地方（エカテリンブルグ市及びチェリャビンスク市）に派遣した。その際、ミシャーリン・スヴェルドロフスク州知事から、連邦政府と共催で7月15日～19日に「産業と技術革新・ウラル国際フェア&フォーラム（Ural International Exhibition and Forum of Industry and Innovations "INNOPROM-2010"）」を開催するので、是非参加されたいとの要請を受けた。その時は、ミッションのわずか1ヵ月半後ということもあり、多数の日本企業の参加は難しいとも思われた。ただ、連邦政府が主催するイノベーションをテーマとする初の大規模行事ということもあり、ROTOBOから代表を派遣することで要請をお受けし、筆者がこれに参加することとなった。そこで、本速報では、INNOPROMの概要についてお伝えするとともに、そこから垣間見えたロシアのイノベーション*の課題と、日本としてそれにどう向き合うかという点に関し、所感を述べてみたい。

なお、INNOPROMの英語版公式サイトは<http://innoprom.org/eng/> であるが、英語での情報